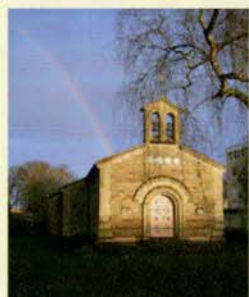


第4章

シャペル・フジターキリスト教への改宗と宗教画



《花の洗礼》1959年 マリ市立近代美術館蔵 ©Musée d'Art Moderne ©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008



ランスのシャペル・ノートル＝ダム・ド＝ラ＝ペ (平和の聖母礼拝堂) 外観



《礼拝》1962-63年 マリ市立近代美術館蔵 ©Musée d'Art Moderne/Roger-Viollet ©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008



《聖母子》1959年 ランス大聖堂蔵/ランス市立美術館寄託 ©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008

フジタの宗教画と、晩年の彼が全身全霊で取組んだランスの「平和の聖母礼拝堂(シャペル・フジタ)」をご紹介します。フジタは、1959年キリスト教へ改宗し「レオナルド・フジタ」となる等、この宗教世界に深い関心を寄せていました。死の2年前に完成した礼拝堂は、その構想から内部装飾の隅々まで画家自身が深く関与した、フジタ最晩年を象徴する建築物です。この礼拝堂の関連作品や、フジタの描いた宗教画を展示し、これまであまり顧みられることの無かった画家の宗教観を探ります。



世界を魅了した天才画家、藤田嗣治。

■観覧料/一般1,300円(1,100円)、高大生800円(600円)、小中生500円(300円)

( )内は前売り、20名以上の団体料金です。\*身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・シルバー手帳をお持ちの方は( )内料金でご入りいただけます。\*本展チケットで常設展示もご覧いただけます。\*前売券発売場所/前売券は10月からローソンチケット(Lコード 86818)、チケットぴあ・ファミリーマート(Pコード 688-380)、セブンイレブン(商品コード 前売3001226/当日3001227)ほか主要プレイガイドで発売。(会期中、電子チケットは当日料金での発売となります)

■主催/福岡市美術館、西日本新聞社、TVQ九州放送 ■後援/外務省、フランス大使館、福岡県、福岡県教育委員会、(財)福岡市文化芸術振興財団、西日本リビング新聞社、cross fm、FM FUKUOKA、LOVE FM、FREE WAVE TENJIN FM、西日本鉄道、九州旅客鉄道、(社)日本自動車連盟福岡支部、福岡県タクシー協会、九州日仏学館、福岡EU協会、西日本文化サークル連合、西日本天神文化サークル ■協賛/トヨタ自動車、大日本印刷、ヤマトロジスティクス、損害保険ジャパン、(財)福岡文化財団 ■協力/DNPアートコミュニケーションズ、日本航空 ■出力協力/エプソン ■企画協力/フランス・エソンス県、キュレレーター

記念講演会 会場はいずれも福岡市美術館講堂

① 集中そして/あるいは蒸発  
—肖像・自画像・「現代生活」

講師/ヴィクトル・I・ストイキツァ氏(ワリアル大学[スイス]教授、美術史家)  
日時/2月22日(日) 14時~ [通訳付]  
【講演会企画協力:西南学院大学国際文化学部】

② レオナルド・フジタ 晩年の孤独

講師/近藤史人氏(NHK制作局エグゼクティブプロデューサー)  
日時/3月14日(土) 14時~

\*聴講無料。応募方法は、往復はがき(お一人様につき1枚)に住所・氏名・電話番号・聴講希望日をお書きの上、福岡市美術館内「フジタ展講演会係」までお申込み下さい。①は2月13日(金)、②は3月6日(金)必着。応募多数の場合は抽選となります。



福岡市美術館 TEL 092-714-6051 FAX 092-714-6145  
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6  
Fukuoka Art Museum 観覧会ホームページ http://www.leonardfoujita.jp 美術館ホームページ http://www.fukuoka-art-museum.jp



レオナルド・フジタ展 [没後40年]  
Léonard Foujita Exposition

2009年 2月22日[日]—4月19日[日]

福岡市美術館

■休館日 月曜休館 ■開館時間 午前9時30分~午後5時30分(入館は閉館の30分前まで)



日本に生まれた画家レオナルド・フジタ(藤田嗣治 1886—1968)は、20世紀初頭のパリで、特有の画風と強烈な個性により一躍画壇の寵児となった後、1955年フランスに帰化。フランス人としてその数奇な生涯を終えました。

1992年、パリ近郊の倉庫で発見された縦横3mにもおよぶ4点の作品。それは、フジタが1928年から翌年にかけてフランスや一部は日本で発表したものの、長く行方知れずだった一連の大作でした。その後、修復を経て新たな生命を得たこれら「幻の大作」を、日本で初めて一堂に展示するのが本展です。

さらに本展では、フジタのその他の作品はもちろんのこと、様々な関連資料や遺品のご紹介も通じて、激動の20世紀を疾走したこの画家の人間像をも新たな視点から浮かび上がらせてます。

## 第1章 スタイルの確立 —「素晴らしき乳白色の地」の誕生

パリに渡ったフジタが、自己のスタイルを確立していく過程を辿ります。初期の貴重な作品や、繊細な線描と「素晴らしき乳白色の地」と評された独特の白による一連の裸婦像、そして自画像などは、パリの人気者へと上り詰めていくフジタの自己研鑽の様子を伝えています。



《横たわる裸婦と猫》1931年 埼玉県立近代美術館蔵 ©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008



《タビスリーの裸婦》1923年 京都国立近代美術館蔵 ©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008

## 第3章 ラ・メゾン=アトリエ・フジタ —エソンヌでの晩年



《アージュ・メカニク》1958-59年 パリ市立近代美術館蔵 ©Musée d'Art Moderne / Roger-Viollet ©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008

1961年、フジタはパリ郊外のヴィリエール=バクルに廃墟同然だった農家を買取り、自宅兼アトリエに改修して終の棲家としました。このアトリエの一部を再現するとともに、そこに残されるフジタの様々な遺品を展示します。これにより、画家フジタの息遣いが時空を超えて蘇ります。



フレスコ画の習作が壁に描かれたアトリエ・フジタの室内

# 藤田嗣治、幻の群像大作日本初公開。

## 第2章 群像表現への挑戦—幻の大作とその周辺

「幻の大作」4点すべてが、日本で初めて展示されます。これらは、フジタが大画面での裸体の群像表現に挑んだ、ダイナミックかつ貴重な作例です。習作素描類や関連作品も同時に展示され、フジタの真摯な人体表現探求の一面を窺わせることでしょ。



《ライオンのいる構図》1928年 エソンヌ県議会蔵 ©Conseil général de l'Essonne ©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008



《犬のいる構図》1928年 エソンヌ県議会蔵 ©Conseil général de l'Essonne ©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008

《争闘Ⅰ》1928年 エソンヌ県議会蔵 ©Conseil général de l'Essonne ©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008

《争闘Ⅱ》1928年 エソンヌ県議会蔵 ©Conseil général de l'Essonne ©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008